

- 1 日時: 令和4年7月1日(金) 14時30分～16時30分
- 2 場所: 大阪府立清水谷高等学校 校長室
- 3 運営協議会委員:

(敬称略)

日本教育会 大阪府支部 支部長	田中 保和
大阪市立高津中学校 校長	竹内 直樹
須藤大場法律事務所 弁護士	須藤 隆二
元PTA 会長	藤本 都也子
清援会 会長(前PTA会長)	嘉田 恭永
PTA会長	近藤 清子

校内 校長、教頭(事務局長)、事務長、首席2名 ※記録:首席

4 次第

I 委員紹介

校長挨拶

II 校内見学(14:35～) 授業見学

①3年G組:現代文 ②2年A組(生物教室):化学

③1年C組(LAN教室):情報I

III 清水谷高等学校 学校運営協議会「実施要項」の確認

本日は委員6名中6名全員出席しており、会が成立していることを確認

IV 会長 日本教育会 大阪府支部 支部長 田中保和氏 選任

会長挨拶

副会長(会長代理) 清援会 会長 嘉田 恭永氏 選任

V 議事(15:10～)

(1) 授業見学について[委員からの質問意見など]

- 情報の授業が新鮮であった。この先、必要なものであり、楽しそうに見えた。
- 授業内容は深化している。
- ICTは中学でも取り組みが進んでいる。
- 真面目に授業を受けていて、楽しそうであった。
- パソコンでパワーポイントを作成するなど、探究でも活用している。
- 化学の原子模型を使った授業は、頭に残る内容であった。

(2) 令和3年度 学校経営計画及び学校評価について

- ◆ 校長より 昨年度の学校経営計画及び学校評価について説明。

〔委員からの質問意見など〕

- もともと生徒の満足度が高く、それ以上上げるのは難しい。
- 指標の計算方法の変更を検討してはどうか。
- 昨年度の防犯カメラ設置は有難かった。保護者への一斉メールもとても助かっている。
- 全体として生徒の望む方向に向いているかが大切である。指標の〇×に縛られることはない。

(3) 令和4年度 学校経営計画及び学校評価について

- ◆ 校長より 今年度の学校経営計画の概要を説明。
 - ・「めざす学校像」を中学生にもわかりやすい表現に改めた。
 - ・制服にオプションとして選択肢を追加することを検討している。
 - ・男女の差のないブレザー型の制服を検討している。〔サンプルの紹介〕
スカート・ズボン、ネクタイ・リボンも選択制とし、ポロシャツ（半袖・長袖）もオプションとして取り入れる。来年度（又は再来年度）からの導入を検討していく。
 - ・ミドルリーダー育成に向けて1年間かけて校内研修を行う。

〔委員からの質問意見など〕

- 第3の制服検討について生徒の参加はあるのか。
 - 期末考査後の今週金曜日に自治会生徒に話す予定にしている。生徒参加と意見の汲み上げは必須と考えている。
- 第3の制服に目が向き、セーラー服が消えていく可能性があることを考えることも必要である。
清水谷は歴史と伝統を大切にしてきた。全部ブレザーに替わることも考えておかなばならない。ブレザーはパンツとのセットのみとし、スカートとのセットはセーラー服だけにしてはどうか。機能的にはブレザーは良いだろうが、複雑な思いがする。
- 今はLGBTQの生徒を受け入れられない制服になっている。
- ブレザー（サンプル）を実際見るとかわいい。昨年度のPTA学年集会でも制服についての意見が出ていた。娘はセーラー服が来たくて清水谷を志望した。複雑な思いである。
- 中学でも制服を変えている学校もある。生徒の思いを受け入れることが必要。3つの制服だけでなくもっと多様なニーズもあるのではないかな。
- 弁護士としてLGBTQを無視できない。運用上、難しいこともあるだろうが、やっていく中で試行錯誤してはどうか。私服という選択肢はないのか。第3の制服を一度やってみるのもよい。
- 今の時代、致し方ない。セーラー服が少数派になり、なくなるのは悲しい。男子詰襟はブレザーが多数になるかもしれない。
- 「制服をどうにかしたい」と昨年度の自治会立会演説会でも発言があった。120周年記念誌の座談会でも話題になった。生徒は新教育課程の「探究」活動の中で、ジェンダー平等を研究し始めている者もいる。
- 男子はブレザーに流れるだろう。女子もセーラー服は少なくなっていくのではないかな。
- 期末考査最終日に校長と自治会主担が自治会生徒に話す。自治会生徒は制服の見直しの話ができることを喜んでいる。「男子はこれ、女子はこれ」と決められていることが納得いかないと思っている生徒もいる。
- 未来の生徒のことを考えたら、望むべき方向性だと思う。120周年のキャッチフレーズは「・・・未来の友へ」であった。
- 制服は過去の人たちのノスタルジーのものではなく、未来の人たちが何を望むかで決まっていくものであろう。

(4) '74期生進路状況について首席より説明

- ◆ 41%が国公立と関関同立に進学している。その後、意見交換。

'76期生・'77期生のスタディサポート結果について説明

(5) 教科書選定について首席より説明

- ◆ 来年度の選定教科書の閲覧および選定の手順について説明。その後、意見交換。

(6) 次回（第2回学校運営協議会）の日程連絡 11月予定。詳細は後日連絡。